

通し番号	4964
------	------

分類番号	R01-24-12-01
------	--------------

本県における促成トマト栽培の作期の前進による粗収益の増加と優良品種を明らかにしました

[要約] 促成トマト栽培において播種時期を前進させることにより、収穫時期も前進する。また、粗収益は、播種を前進させるほど増加の傾向がある。なお、8月に播種する場合にはトマト黄化葉巻病のリスクが高いため、耐病性品種の‘桃太郎ホープ’‘はれぞら’、‘TYみそら109’が有望である。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県のトマトの収穫最盛期は市場価格が低い時期に重なる。そのため、栽培期間を早めて市場価格が高い時期に生産量を増加させることで収益増が期待される。その一方で、栽培期間を早めることで、成育初期のトマト黄化葉巻病の発病が懸念される。しかし、本県の冬春トマトに適した品種が明らかにされていない。そこで本研究では、播種期の違いが時期別収量に与える影響を、さらに、収量、果実品質が優れる品種を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 収穫はいずれの品種も8月播種で12月下旬から始まり、3月までの収量は合計収量の約50%となり、9月播種では1月下旬から始まり、4月までの収量は合計収量の約50%となる。このことから、8月播種は9月播種よりも収量のピーク期が前進する(表1)。
- 2 粗収益は、収穫期の前進化により販売単価が高い時期の可販果収量が増加し、同品種間で比較すると、8月播種>9月播種>10月播種となる(表2)。
- 3 可販果収量が多く、可販果率が高い促成トマト栽培の品種として、穂木品種‘桃太郎ホープ’、‘はれぞら’、‘TYみそら109’が優れる。また、台木品種では‘グリーンセーブ’よりも‘グリーンフォース’で粗収益が多くなる(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本県の促成栽培よりも早い8月播種、10月定植の作型では、トマト黄化葉巻病のリスクが高いため耐病性品種を使用する。
- 2 コナジラミ類の防除を徹底する。

[具体的データ]

表1 月別可販果収量(2017年度試験より)

品種	月別可販果収量 (kg/株) (合計収量に占める割合 (%))														合計		
	12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月			7月	
	収量 (kg/株)	割合 ²⁾ (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)	収量 (kg/株)	割合 (%)		収量 (kg/株)	割合 (%)
8月播種																	
CF桃太郎はるか	0.5	(10.2)	0.7	(15.7)	1.3	(28.2)	1.0	(21.4)	0.4	(8.0)	0.7	(15.7)	0.0	(0.7)	0.0	(0.0)	4.7
桃太郎ピース	0.5	(7.9)	1.0	(15.5)	1.1	(17.5)	1.6	(24.2)	0.7	(11.5)	1.5	(22.7)	0.1	(0.8)	0.0	(0.0)	6.5
桃太郎ホープ	0.5	(8.8)	0.9	(15.0)	1.1	(17.9)	1.5	(24.4)	1.0	(15.9)	1.1	(17.7)	0.0	(0.3)	0.0	(0.0)	6.0
TYみそら86	0.6	(10.2)	0.9	(15.8)	1.4	(23.2)	1.4	(23.9)	1.0	(16.9)	0.6	(10.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	6.0
はれぞら	0.5	(7.7)	0.8	(10.9)	1.5	(21.9)	1.5	(21.9)	1.1	(15.0)	1.5	(21.3)	0.1	(1.2)	0.0	(0.0)	7.1
麗旬	0.6	(10.8)	0.7	(11.8)	1.3	(22.7)	1.2	(22.3)	0.7	(12.4)	1.1	(19.5)	0.0	(0.4)	0.0	(0.0)	5.5
9月播種																	
CF桃太郎はるか	0.0	(0.0)	0.0	(0.7)	0.7	(13.5)	1.8	(35.3)	0.7	(13.5)	1.6	(31.3)	0.3	(5.5)	0.0	(0.0)	5.1
桃太郎ホープ	0.0	(0.0)	0.0	(0.2)	0.7	(12.2)	1.7	(29.4)	1.3	(22.9)	1.6	(29.0)	0.4	(6.3)	0.0	(0.0)	5.7
麗旬	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.6	(15.4)	1.2	(28.8)	0.7	(18.4)	1.4	(33.9)	0.1	(3.2)	0.0	(0.2)	4.0
麗容	0.0	(0.0)	0.1	(1.8)	0.8	(17.2)	1.3	(28.1)	1.1	(24.7)	1.1	(24.6)	0.2	(3.6)	0.0	(0.0)	4.5
麗妃	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.4	(6.8)	1.7	(30.7)	1.4	(24.7)	1.7	(31.2)	0.4	(6.4)	0.0	(0.2)	5.5
10月播種																	
CF桃太郎はるか	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.4	(10.4)	1.2	(25.7)	1.7	(38.5)	1.1	(25.5)	0.1	(1.2)	4.5
麗容	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.3	(8.1)	1.3	(33.0)	1.6	(42.0)	0.4	(11.5)	0.2	(5.5)	3.9

²⁾ 当月収量が全期間収量に占める割合

表2 収量特性(2017年度試験より)

品種	総収量		可販果収量			可販果率 (%)	1果重 (g)	A品収量 (kg/株)	B品収量 (kg/株)	C品収量 (kg/株)	D品収量 (kg/株)	E品収量 (kg/株)	粗収益 ²⁾	
	個/株	kg/株	個/株	kg/株	t/10a								(円/株)	(千円/10a)
8月播種														
CF桃太郎はるか	52.7	5.6	38.5	4.7	8.4	84.6	122.0	3.6	0.5	0.3	0.3	0.8	1,304	2,329
桃太郎ピース	55.5	7.7	43.7	6.5	11.6	84.1	148.9	3.2	1.7	1.0	0.6	1.2	1,663	2,970
桃太郎ホープ	49.5	7.3	37.9	6.0	10.7	81.8	158.0	3.2	1.4	1.0	0.4	1.3	1,583	2,828
TYみそら86	45.0	7.4	35.6	6.0	10.7	81.0	168.0	3.6	1.2	0.8	0.4	1.4	1,678	2,997
はれぞら	47.4	7.9	39.3	7.1	12.6	89.8	179.9	3.8	1.5	1.1	0.8	0.8	1,894	3,381
麗旬	48.5	6.4	38.0	2.4	4.3	87.1	145.3	3.3	1.3	0.8	0.1	0.8	1,490	2,661
8月播種														
CF桃太郎はるか	55.4	6.4	39.0	5.1	9.1	79.8	126.4	3.3	1.0	0.7	0.1	1.3	1,174	2,097
桃太郎ホープ	54.2	7.5	38.5	5.7	10.1	75.6	147.1	3.1	1.3	0.9	0.3	1.8	1,324	2,364
麗旬	55.0	5.8	31.8	4.0	7.2	69.0	126.9	2.5	1.1	0.4	0.1	1.8	939	1,676
麗妃	53.3	7.4	37.6	5.5	9.8	74.4	146.2	2.1	1.6	1.4	0.4	1.9	1,242	2,218
10月播種														
CF桃太郎はるか	53.1	6.1	35.9	4.5	8.0	73.7	123.6	3.4	0.5	0.4	0.2	1.6	911	1,627
麗容	54.8	6.9	29.9	3.9	6.9	56.1	130.0	2.9	0.6	0.3	0.2	3.0	713	1,273

²⁾ 粗収益は本試験の旬別可販果収量と2017年12月から2018年7月の横浜卸売市場の旬別販売単価から算出

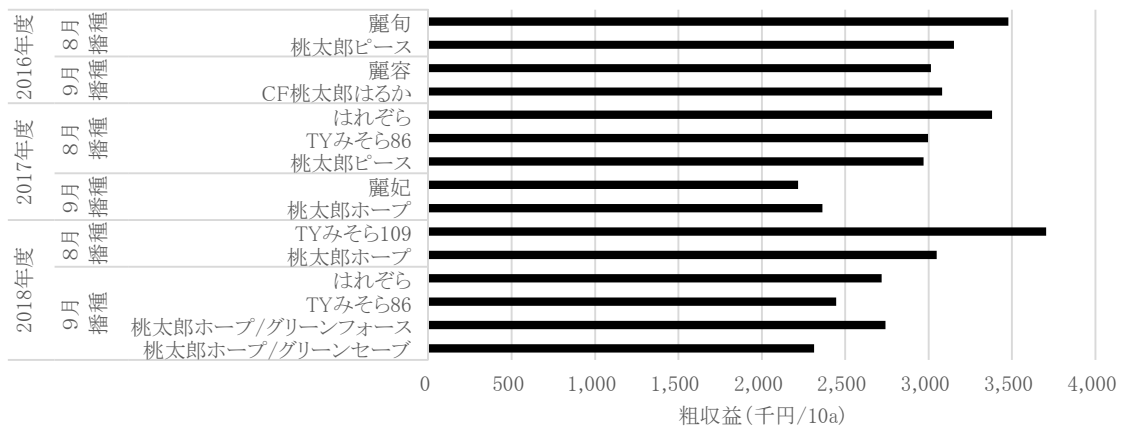


図1 年度別8月及び9月播種での有望品種における粗収益

※2016年、2017年度の台木品種は‘グリーンセーブ’を使用。

- [資料名] 令和元年試験研究成績書
- [研究課題名] トマトの作期及び品種の検討
- [研究期間] 2016(平成28)年度～2019(令和元)年度
- [研究者担当名] 安井奈々子、吉野飛鳥
- [協力・分担関係]